

「新しい公共」推進会議非公式会合
議事録

内閣府政策統括官(経済社会システム担当)

「新しい公共」推進会議非公式会合
議事次第

日 時：平成 23 年 5 月 31 日（火） 17:15～19:03

場 所：合同庁舎 4 号館 1 階共用 120 会議室

1. 開 会

2. 議 題

1. 「新しい公共」の観点からの震災支援のための制度等について
2. 意見交換

3. 閉 会

○金子座長 皆様お集まりいただきましてありがとうございます。私としては待ちに待った非公式会議でございます。

推進会議は政府のお忙しい方と一緒にですので、特に最近では1時間しかないということでも3分間、3分間みたいなことですが、今日は延々と内閣府のスタッフが倒れるまでやります。それは冗談でございますが、まず逢坂政務官の方から一言ごあいさつというか、激励の言葉をいただきたいと思っております。

○逢坂総務大臣政務官 皆さんこんにちは。逢坂誠二でございます。今日はいつもの官邸と違って会場が変わりまして、気分も一新といえましょうか、本当に話をするには実はこういう場所の方がふさわしいのかなと思いつつも、官邸でやるということにはそれはそれでの意味がある。こういう会議が官邸で開かれるということは政権として、政府としてこの会議の位置づけが非常に重たいんだということの意思の表れでもございましたので、あれはあれで意味があったかなと思っております。

しかしながら、あそこでやりますと時間が限られている。余り偉い人がたくさん来ると本当に自由闊達な発言も場合によっては、ここの会議はそんなことなかったですね。結構自由闊達に発言をしていたと思っておりますけれども、そんなことで今日は非公式会合ということで、皆さんからまたさまざま御意見を賜ればと思っております。

3月11日の大震災発生以降というふうによく言われるんですが、私の認識ではそうではありません。3月11日の大震災発生以前から、日本の国の公共の在り方というのは変わらざるを得ないところに来ていたわけでありまして。それが1つは阪神・淡路大震災であったわけでありましてけれども、とにかく今回の震災があるがなかろうが、私たちの公、公共の担い手というのはさまざまな形へ進化していく時期に来ていた。そして、そのときに3.11が発生し、更にそこに加速をしていくということになるのだと思っております。

そして、それは単に事実上、制度や仕組みが加速するのではなくて、3.11以降は具体的な取組みがまさに現場で行われながら、多くの人にこの重要性を認識していただきながら変わっていくということだと思っております。日本国民にとっては今回の震災は大変悲しい、つらい、厳しいことではありますけれども、単につらい、悲しい、厳しいにこの震災をとどめないで、将来に向かって少しでもプラスになっていけるように、この震災をとらえていきたい。そして、この非公式会合の場がその大きな原動力になればなと思っております。委員の皆さん方にはどんどん意見を出していただきたいと思っております。

復興構想会議というものがございます。復興構想会議は6月末にいろいろと最初の提言をとりまとめると言っておりますけれども、その提言の中にもこちらのさまざまな議論を場合によってはつないでいきたいと思っております。その意味では時間が余りないと思っておりますが、是非多くの意見を出して具体化をしていけるように、御支援をお願いしたいと思っております。

私はそんなに忙しくない人間で、本当はこの会議にずっといる予定だったんですが、急遽5時半までにさる場所へ来いという上司からの命令がございまして、あいさつだけで失

礼をさせていただきますけれども、金子先生、あとはよろしく願いいたします。

○金子座長 一応、この終了時間が 19 時 15 分となっております。2 時間ございます。

趣旨を最初にお話したいと思います。今、逢坂政務官もおっしゃったとおり、タイムスケジュールとしては予定は調整中だと思いますけれども、6 月中に一度、推進会議がございます。その次が、やるとしても 7 月末になってしまいますので、復興会議とかさまざまな政府の日程からすると、そのときに何らか中間的なまとめをする。

後で松原さんの方からお話いただく震災ワーキング・グループの方の提案をいただき、それを踏まえながら推進会議としての提案をする多分そこでもって正式に承認をしていたくことになると思いますので、そういう意味では今日がみんなで集まって議論するラストチャンスでございます。ということで、そのために今日は非公式にしております。

非公式と言えどもカメラは入っておりますし、ちゃんと議事録はとりますから、爆発するくせのある人は少し自制をしながらお話をいただけると。それは半分冗談でございますけれども、時間は余りにせず、しっかりと議論していただきたいと思います。

お手元に資料 2 『『新しい公共』推進会議からの提言の骨子案（座長案）』というものがございます。これの位置づけを 2～3 分だけお話したいと思います。

皆さん御存じのように、推進会議の下に震災支援制度等ワーキング・グループというのがつくられまして、隣の松原さんにその主査をしていただいています。メンバーは今日大体おられますけれども、推進会議のメンバープラス松原さんと濱口さんに入っていて、坪郷さん、黒田さん、早瀬さんというメンバーで精力的に毎週週 1 回は必ずといった形でやっていたらいます。それが今まとまりつつあるということで、今日はそのドラフトが出てきますので、それが資料 1 となっています。

ただ、松原さんは先ほどの会合でこれをすごく変えるかもしれないとおっしゃっていたんですけれども、私はこれを読ませていただきながら、私はワーキング・グループもできるだけ参加しました。

資料 2 は私が本当に勝手に書いたものですので、今日議論するのに何か 1 枚紙とかだと議論のしようがないなと書いたのも、皆さん御批判ないいろいろ反対意見がある、こんなものが落ちているのではないかとこのことを覚悟の上、私が好きなように書きました。ですから、まずちょっと斜めに読んでいただきながら、これを出発点として議論をしていただきたい。これで決まったとか、これを少し修正してまとめようという気持ちは全然ございませんので、全部やぶいて捨てると言えばそれはそれでいいと思います。

円卓会議のときにもこういう会を持ちまして、宣言をまとめたときには私がドラフトをして、その前に佐野さんとか寺脇さんなんかと相談しながらドラフトをして、やはりこういうところで 2 時間か 3 時間やり、その後メールでもっとばっとやって、最初のドラフト 3 分の 1 ぐらい全部直して、それが次の次の会か何かの円卓会議で承認され、今、ウェブに載っているバージョンになっておりますので、今日たくさん意見をください。それで最後ではございません。それでまたメールなどでいただいて、私書き直して、次の推進会

議のときにもう一回チャンス。そのときは多分1時間か1時間半しかないということでございます。

それで、最初に松原さんの方からワーキング・グループの方のドラフト、素案について説明をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○松原 WG 主査 「『新しい公共』による被災者支援活動等に関する制度等のあり方について（素案）」という資料1で、支援制度等ワーキング・グループということで、今まで5回ほど議論させていただきまして、その素案が今日お配りしているものです。

これは前回10日ほど前に公表されまして、それを基にパブリックコメントを募集しました。昨日まで募集しておりまして、いただいたパブリックコメント、それから、今日先ほどまでワーキング・グループで議論いただきました。また、6月2日、3日は岩手、宮城、福島と被災地のヒアリングを行っていく予定にしております。そのヒアリングを受けて更に現地のニーズ、現地のやりたいという意思に基づいて、また見直していくというものでございまして、あくまでも途中のものとして認識して、皆さんお手元で御議論いただければと思います。

また、これの多くは資料2の金子座長の骨子案に盛り込んでいただいておりますので、資料1は参考ということで見ていただいて、中心は資料2を御議論いただければ、資料1にも多分反映していく形になると思いますので、御参考までということで御説明させていただきます。

読んでみると時間がないので、資料1を見ていただいて、大きく分けまして骨子の表書きがあります。被災者支援活動等における今回のワーキング・グループとしての表書きがあります。今回、苦労しましたのは被災地も非常に多様な現状がございまして、岩手、宮城、福島それぞれ違う。とりわけ福島は大きく違うということで、そういうことに関しても十分配慮していくことを書かせていただいております。

2ページ、これに関しましては「1.『新しい公共』による被災地での支援活動の環境整備」ということで、これは被災という現状を受けまして、今できる環境整備に関して述べさせていただきます。

- (1) NPO 法人及び公益法人の事業報告の提出等の期限の延長。
- (2) 公務員による NPO 活動への参加の促進。
- (3) 資格保持者の能力の有効活用。
- (4) 被災地における移動手段の確保。
- (5) 被災者支援活動等を対象とする表彰制度の創設となっております。

ただし(5)に関しては先ほどワーキング・グループが開かれまして、なかなかこういう中で評価することにつきましては、まだ評価尺度も十分定まっていない中で、一部ミスリードもあるのではないかとということがありまして、(5)に関しては削除することで先ほど決まりました。それに関しまして、まだ細かい検討をいただいているところでございます。

4 ページ「2.『新しい公共』を活用した新しい地域づくり」ということで、(1) 新しい地域づくり支援のための支援拠点の創設。(2)被災地の支援・復興計画策定に向けた「熟議」の推進ということを書かせていただいております。

(1) で上から□がございまして、2パラグラフ目にあります「新しい公共・復興推進センター」というものを提案しておりますが、これも先ほど議論がありまして、センターをつくるというものでなしに、こういう機能を持ったものをどういう形でか実現していくわけで、新しいセンターを新たにつくるという方向ではない。こういう形に関していろんな機能、必要な機能を被災地のニーズに沿って実現していくようなものを提案していこうということが書かれているということ、御理解いただければと思います。

6 ページ「3.『新しい公共』による支援を支える資金面での環境整備」ということで、(1) 寄附の拡充に向けた一層の環境整備。これは寄附金税制に関してです。(2) 休眠口座基金の創設と復興支援のための同基金の活用ということ、特にお金の面でのニーズに対して書かせていただいております。ただ、このうち(2) 休眠口座基金の創設と復興支援のための同基金の活用に関しましては、先ほどのワーキング・グループにおきまして、今、被災地においてはなかなか被災地の方々の口座を確認するのも大変な作業になっておりますし、地元の銀行も大きな被害を受けている。そういう中で一部こういう復興支援のための休眠口座ということでは、誤解を招くようなおそれもあるのではないかと。こういうことに関してはもう少し長期的に専門委員会もしくは推進会議で広い視点から御議論いただいた方が、震災支援というフェーズでは扱わない方がいいのではないかと御意見をいただきまして、この(2) に関しても削除ということ、別途御議論いただければと思っている次第です。

8 ページ「4. 現行制度の下で実現可能な取組等」ということで、委員の皆さんからいただいた多数の意見、事務局からも御提案いただいた意見に関して、とりわけ現行制度で対応できるものに関しては、これをより一層後押ししようということ、NPO等の活動に関するもの、ボランティア活動に関するもの、自治体活動に関するもの、企業に関するもの、多様な主体によるものということを書かせていただいております。この文言等については先ほどのワーキング・グループ等で、幾つか修正というのは入る予定で御議論いただいているところですが、大体概要はこういう形でございまして、あとは推進会議からの提言という形の中に、しっかりと推進会議の中で盛り込んでいただきたい。ただ、これに関してもワーキング・グループとしても更に議論を深めていきますので、その辺まだ議論を踏まえた段階で推進会議の方にお諮りしていきたいということ、先ほど議論があったところでございます。

以上です。

○金子座長 ありがとうございます。今いただいたワーキング・グループのドラフトが、もう少しすると最終版になってくると思います。それと私たちが推進会議として出す提案との関係について、ほんの少しだけ私が今、考えているところを御説明したいと思います。

御意見がありましたらいただきたいと思います。

ワーキング・グループは大変精力的にミーティングをしていただき、いろいろなヒアリングもしたり、資料を参照したり、パブリックコメントもし、これからまた被災地の声を聞きという、大変たくさんの方のエネルギーを出していただきました。まとまった形で出てくると思っていますので、それはそれとして1つの冊子として、そのままワーキング・グループの提案ということで発表をしていただきたいと思っております。

私たちはそれ以外のいろんな意見もあると思っておりますので、それを組み込んで全体として我々の意思として推進会議の提案。その中にはワーキング・グループでいただいたものもかなりたくさん入ってくるのではないかと思います。そういう形でもってワーキング・グループの努力も十分尊重するという形で1つの独立の冊子として、きちんとホームページにも載せ、公表するという形でいきたいと思っております。

これについてのみ何か御意見がございましたら片付けてしまいたいんですけども、いかがでしょうか。いただいたものもそのまま全部我々が取り入れてしまって、何かほかのものを入れて推進会議の提案ということで、ワーキング・グループの提案はなかったかのようにするのはまずいかなと思いつつ、我々としてもワーキング・グループのものをそのまま提案するわけではなくて、我々自身もさまざまなほかの意見もあると思っておりますので、そういうふう判断しておりますけれども、今すぐここでもって決めることはないと思っておりますが、そのようなつもりで今日の議論をしていただければと思っておりますけれども、それについて御意見ございましたら、今、伺っておきたいと思っております。

○坪郷委員 私もワーキング・グループのメンバーですが、ワーキング・グループのメンバーでかなり集中して議論をしまして、素案についてもパブリックコメントをかけまして、今週木曜、金曜と東北3箇所ヒアリングをします。それを受けて最終的にまとめをやるというのは松原さんが言われたとおりです。

この中には議論はしたけれども、十分盛り込めなかった論点もありますので、推進会議の方でこれをしっかり受け止めて、更に議論をしっかりとっていただきたいと思っております。

○金子座長 それはそのとおりだと思います。オンゴーイングでいきますので、向こうが変わったらその情報も皆さん方推進会議の方にフィードバックして、そこで変更するようなことも。また、推進会議できちんと決めるときには、ワーキング・グループのメンバーにもちゃんと会議に入っていて、意見をいただくようにします。

○佐野委員 私は金子座長の意見に賛成で、ワーキング・グループの作業は明日、あさってからやられるヒアリングもありますし、パブリックコメントにも関わっていますし、早公のものになっているわけです。しかも検討が現地とのヒアリング含めて詳細にやられているということでございますので、それはそれとして独立した形で掲載する。だから推進会議は総論的な感じで、更に詳細がついているという形でやっていくのがいいのかなと思っております。

○金子座長 ほかに今この段階で御意見いかがですか。後でいただいても結構ですけれど

も。

○小澤委員 私も座長と、ただいまの御意見に賛成です。

先ほどオブザーバーとしてワーキング・グループに参加させていただきましたが、大変精力的に、集中的に回数も重ねて議論していただいておりますし、たくさんの資料もそれぞれの委員から提出されておりますので、その貴重な御意見や資料は是非しっかりとまとめて提出をするようにしていただけたらと思います。

以上です。

○金子座長 ありがとうございます。北城さん、お願いします。

○北城委員 北城ですけれども、基本的に皆さんの御意見に賛成ですが、一方でこのワーキング・グループに入っていない方でも「新しい公共」推進会議でいろんな意見もあると思うので、これはこれで出していただいて、「新しい公共」推進会議としては座長が考えられているようなものを基にして、いろんな意見も含めて出されたらいいのではないかと思います。

○金子座長 よろしいでしょうか。とりあえずこれで終わりということではございませんけれども、では、そのような形で松原さんもそれでよろしいですか。

○松原 WG 主査 はい。

○金子座長 では、一応それをマインドとして今日これからの議論をしていただければと思います。

資料2ですけれども、これも内容を一々やっていくつもりはないので、どこが今、松原さんから説明のあったワーキング・グループの素案と違って、どこが私が勝手に書いたところだということだけを申し上げますので、そこら辺を重点的にチェックしていただきたい。基本的には今、松原さんの方から説明のあったワーキング・グループの素案については、多分8割方入れ込んでおります。違うところだけ申し上げます。

1 ページ、出だしは同じなんですけれども、私の趣味の問題なんですけど、福島から原子力発電所の事故の問題を正面から素直に書いた方がいいのではないかと思います。あえて2回も書いてあります。私も大変これはすごく難しい問題で心を痛めておりますので、別にどちらが大事ということではないんですけれども、そういう意味で松原さんはだめと言っているんですが、最後に書くのではなくて、こういうことがあるんだということは言ってしまった方が私としては気が楽だなと思ったので、ちょっとそこは違います。

提案の柱の立て方は全然違います。これは私の編集の趣味です。1はほとんど同じですが、第3パラグラフの一番下の「大小さまざまな」の前ぐらいに、新浪さんの御提案がここに入るのではないかと思います。ちょっと新浪さんの提案を見てください。新浪さんは皆さん御存じのように現地での店をなるべく早く立ち上げて、商品を提供するという形で製造元を叱咤激励して、飛行機で運んだりというようなことをやられた。その経験から、それを更にこれからきちんとやるにはどうすればいいか。これは制度改革ということではないんですけれども、こういうことをきちんとやると企業としてやるべきことはできると

いう提案をいただいていますので、これは今、言ったところぐらいに編集して挿入するといいいのではないかと考えております。

もとに帰っていただきまして、2ページの下ですけれども「大小さまさま」というところは新しく加えたところです。この前半は北城さんから2つの御提案をいただいたものを、ほとんどそのままというか、少し短くして入れております。これについて北城さん、少し御説明をいただけますでしょうか。北城さん自身の資料もございますので、それを見ながら簡単に御説明いただければと思います。

○北城委員 私の提出資料は資料4にあるので、資料4を簡単に説明してから進みたいと思うんですが、資料4に書いてある文章は後で参照していただくとして、資料4の3ページ目にエンジェル税制の対象と書いてあるんですけれども、今回被災した地域で雇用をつくらなければいけない。雇用をつくるために融資で事業再生をするということはいろいろ議論されているんですが、融資だけではなくて資本金を出す形で事業を新たにつくる、ないしは再生をする必要があると思うんですけれども、寄附金とか一時的な寄附だけでは、そのときの必要は満たせても、継続して事業をするためには企業を新たにつくるというのは非常に重要なことで、NPOも大事ですが、企業も大事だ。

企業には「新しい公共」の中では社会起業家と言われるソーシャル・エンタープライズ、ソーシャル・アントレプレナーということについていろいろ議論したと思うんですが、しかし、何が社会起業家ということの定義の問題もあると思いますし、更に社会起業だけではなくて幅広い企業が被災地でできて、そこで漁業なり農業なり、あるいはそれ以外の仕事をつくり出すというのは非常に重要なことだと思います。

そのために現在、エンジェル税制という税制があって、こちらは研究開発型の企業を新たにつくったときには、この税制の適用になるということなんですが、この税制の適用を受けている会社が2～3年前、この制度ができたときで年間80社とかいう程度で、実は去年は50社ぐらいに減っているんです。ですから、制度をつくっても日本全国で50社ぐらいしかこの制度を使った起業が起きていないということは、雇用の拡大に対しては不十分だろうということで、今の資料の次のページなんですけれども、創業支援税制ということでエンジェル税制を大幅に拡充して、1つは企業の要件として研究開発型でなくても、とにかく新たに雇用をつくるという意味からすれば、会社ができることが重要だということで、まず対象企業の要件を中小企業でなくてはいけないんですが、とにかく社員2人以上の会社、そして創業も3年以内ということで、既にある会社が新しい事業に出ようとするとなかなか3年の対象に入らないので、10年ぐらいに拡大したらどうか。そのほかに現状では1年以上の会社は営業キャッシュ・フローは赤字とか、かなり制限がついているんです。制限がついているためになかなか会社ができないということなんで、現在黒字でも事業を更に拡大しようとするとなかなか資本金が必要なので、そういう意味で資本金を入れるということに対して優遇したらどうか。

優遇策は現状と同じで、投資した資本金の金額から2,000円を引いたものをその年の総

所得から引くという制度でいいのではないかということで、ですからここではかなり幅広く創業支援の税制を拡充したらどうかということにしています。ただ、全体を変えるのが非常に難しいということであれば、例えば被災地域の特区だけでもこの制度を認める。ただ、これも特区の対象外でも被災した人たちのために事業する人はたくさんいると思うんです。実は日本全体の活性化ということも考えると、何も特区でなくてもいいのではないかという思いで、かなり幅広く書いたということで、それ以外のことはまた後でお話したいと思います。

○金子座長 もう一つの方は後で説明をいただくということで、これは北城さんが推進会議の第1回でも御提案いただいたものを今、震災バージョンというか、改めて少しテラーメイドしていただきました。

その次のページの井上さんというのは円卓会議のメンバーで、今、専門調査会のメンバーをやっています。井上さんと私の共同提案で、我々よく知っているミュージックセキュリティーズという投資会社が始めた素晴らしいなと思うことで、趣旨はほとんど今、北城さんがおっしゃったことと同じですが、これは出資をしてもらおう。これは別に創業でなくてもいいんですけれども、井上、金子の資料6を開けていただきますとファン드가8つ走っているんですが、ここにあるような方々がみんな被災をして事務所がつぶれてしまった、ないしは機械が全部なくなってしまうという人たちが、こういうことを復興したい、幾ら要るということを文章と映像で書いてあります。それについて一口1万円、1万円のうち半分は寄附、半分は出資ということで個人ないし法人の出資を今、応募するという形でございます。

ミュージックセキュリティーズはこのようなマイクロファンドの経験がある企業でございますので、趣旨は全く同じです。これは被災地でもって今、企業活動ができなくなったところに対して支援をするということです。これも多分、被災地の企業であるとか、いろいろ条件をつけた方がいいんですが、余りまたつけ過ぎると別に被災地の人だけ雇う必要も必ずしもないので、この辺の詳細は検討ですけれども、基本的には被災地の復興ということを少し緩く、多分これは特例措置にした方がいいのかなというような気がいたします。

ということで、企業を起こすないしは企業を復活させて「新しい公共」で言ったように支え合いと活気のある社会をつくるというところについて、ここに書きました。

3ページの下に私は勝手なことを書いてしまっています。これは誤解を生むかもしれないですけれども、義援金になると何に使われるかわからないわけです。とりあえず義援金と言うと文句は言わないかなというようなにおいがして、私はどうかなと思うこともあります。このような形でエンジェル税制にしても、この人ならいいと見込んだ人に寄附をしていく、ないしは出資をしていくということもあっていいのではないかな。こちらの方がいいということではないんですけれども、全体として被災地に行く、企業を起こす、経済活動が起こるための資金がより多く提供されるということはいいいのかなと思って、こちら辺は皆さん趣味としてこんなものを書くのと赤十字から怒られると嫌だみたいなことがあります。

ましたら、本当はそのつもりで書いたわけではなくて、チョイスを広げようということですので、その辺は御指摘いただければと思います。

3 ページの下の方はワーキング・グループと同じでございますが、4 ページの一番上は協同組合に関しても同じようなさまざまな取組みがあると思います。加藤さんの方から資料が提出されており、坪郷さんもワーキング・グループの方でペーパーを出していただいていますので、ここに何か文章をいただければいいなと思っています。その後はワーキング・グループと全く同じです。

次のページの提案2というのは、ワーキング・グループにも少しだけあるんですけども、それを物すごくブローアップしたバージョンを私の思いで書いてしまいました。寺脇さんからは推進会議では何回かこの話はあったんですが、何でここに持ってきたかというのは、私の気持ちとして当事者が自分たちで議論して、自分たちで提案するという、制度改革はほとんど関係ないんですけども、どうしても受け身の立場でやっていただくみたいな形になっているので、自分たちで子どもからお年寄りまで何千人も集まって議論して、それをネットで配信してみたいなことがあるといいのではないかというので、アメリカの場合にはハリケーン・カトリーナが来たときに 4,000 人、8 つぐらいの場所でもってやったらしいんです。アメリカでできて日本でできないわけないなと思ったりしたんです。

一方で逢坂さんと鈴木寛さんの方で、総務省と文科省でいろんな地域で熟議をやるということも実は動き出していたときに災害があったわけですけども、制度改革とは全然関係ないんですが、こういう動きもあっていいのかなど。寺脇さん一言、何かございますか。

○寺脇委員 熟議というのは、私もしょっちゅう日本中のいろいろなところに行って参加しているんですけども、要するに何か支援というと、困っているところを助けに行く方ばかりなんだけれども、そちらの方で一体何をやってほしいのかということは勿論ですけども、自分たちが何をしようとしているのかという議論、実は金子先生が制度設計していただいていると思うんですけども、この熟議というのはだんだんこのごろシフトしてきて、最初は文部科学省が中心になって文部科学省の教育政策について皆さん議論しようよと、それで、こうだ、こうだという話だった。それがこのごろは自発的にみんながやるようになってくると、だれに何とかしてくれではなくて、自分が何をやるかということとをそこで、最後にみんな一言ずつ、自分は昨日までと違って明日からこれをやるということを一言入れようということができて、全員が建設的にそこに加わるということができてくるということがありますので、これは勿論「新しい公共」に不可欠なことだとは思いますが、ちょっと毛色は違ってもここに是非書いておいていただいとしたいと思います。

特に行政側がやるものも大事ですけども、カトリーナの話は私も不勉強で知らなかったですけども、こういう形でやれば本当にいいのではないかと思いますので、この例を御紹介いただいたこともとてもいいことだと思います。

○金子座長 この例は、実は私が発見したのではなくて、辻本さんのところの情報ボラン

ティア連携室の藤沢烈さんから紹介いただいたもので、私としてはアメリカにできるのに何で日本にできないのという対抗意識を持ったりしまして、それはどうでもいいんですけども、これをここに入れるかどうか、それがふさわしいかどうかはまた議論いただければと思います。

ざっとどこが違うかを続けますと、6～7ページにかけては、ほとんど全く同じです。7ページは、こちら辺は制度面のもの、お金面のものがございます。提案3の一番最後には高橋さんからの、これは前から提案いただいている国土保全隊の話、これはちょっと短いので後でたくさんにさせていただいても結構ですけども、ここにしております。

提案4は、ワーキング・グループの早瀬提案をみんなでポリッシュしたものを、全くそのまま入れてあります。これについては、まだこれから進化するんじゃないかと思っておりますので、それにつれて、これはかなりメジャーな提案ではないかと思っております。

提案5は、全くオリジナルです。ワーキング・グループのものだと少し IT 関係の提案が余り見受けられなかったということと、やはり強力なツールではないかと思っております。北城さんからもそのことで御意見をいただいておりますので、それを御説明いただけますでしょうか。

○北城委員 先ほど資料4の最後の2つのページなんですけれども、被災した際に被災者の支援のシステムは、たくさん企業とか団体が救援物資の配付であるとか、行方不明者を探すとか、いろいろなシステムをたくさんつくられたんですが、それぞれが独自につくられたために、全体がどうなっているかなかなかわかりにくくて、必要なものと支援物資のマッチングは簡単にはできないかもしれないんですが、実は海外でオープンソースのソフトウェアで、例えば中国の四川の地震であるとか、ハイチの地震であるとか、いろいろなところで大きな災害が起きたときに、そこで必要な情報を一元的に集約して、それを多くの人活用できるシステムがあって、これを日本の、たしか兵庫テックさんだと思うんですが、オープンソースの日本での適用について、これを更に整備されて、現実にもう岩手県とか一部山形県とかで使い始めているんですが、ところがこのシステムを使おうという提案をしたときに、では内閣府が受けるのか、総務省がやるのか、県がやるのか、いろいろ議論している間に1か月以上かかってしまって、結局本当に必要なときにはすぐ使えなかったということもあるので、今回、今なら更に時間をかけてシステムをつくり上げることができることと。

今回いろいろな機能を追加して、例えばアンドロイドや携帯端末からいろいろな情報を入れられるようにしたということは、オープンソースですからほかの国が次に使うときにも活用できるし、日本の中でも次に使えるので、せっくなので今回ひとつ海外にも、次の被災の参考になるようなものを日本でつくり上げるぐらいの活動をされたらどうかということで、ここに例を書いています SAHANA というシステムで、2枚目も兵庫テックさんの活動をいろいろ支援しているところです。

○金子座長 ありがとうございます。今のを2、3日前にいただきましたので、それに

触発されて、次に長々と私の思いを書いてしまって、実際こんな長く載せる必要はないんですけれども、一言だけ言うと、16年前の阪神・淡路のころはインターネットがありませんでした。今これだけネットが盛んになっているんです。やはりマッチングに関しては十分ではなかったというか、全然だめだったと。グーグルのパーソンファインダーがかなりうまくいった例ではあると思いますけれども、もっともっとできるのではないかということと全く同じ趣旨でございますので、ちょっと書き過ぎたような気もしますが、それにさまざまな団体の情報が事前に、どうやったら流通するか、どうやってフォーマットを一緒にするかということをやっておかないと、事が起こってからでは、それは今、御紹介いただいたようにオープンソースなどを使いつつ、普段からそういうことをやっておく。それは世界中に流通するわけですから、そういうことをやりたい。

もうちょっと広げますと、特に岩手、宮城ではたくさんの患者の情報がなくなって、例えば栗原市の中央病院には何十人もの方が沿岸から来て、薬の名前も覚えてないし、病歴も全然御存じない方で、避難所でも大変だと。

やはりこれは普段から紙ベースではなくてしっかりと、クラウドと呼ぶかどうかは別にして、ちゃんとどこかネット空間の安全なところに確保しておいた方がいいのではないかと、連携をどうするかという情報の連携の一つの例ではないかと思えます。この辺は最終的には削ってもいいと思えます。

ただ最後に、今、北城さんがおっしゃったように、やはり縦の関係が非常にうまくいかなかった例がたくさんあると。国、県、市、どこかが悪いということではなくてですね。横の関係はうまくいったかという、これは私の私見で、NPOの方には申し訳ないんですけれども、NPOも結構自己主張が強く、非常に小さな差異を大切にしていって、大事なことなんですけれども、こういうときには小さい差異はやめて一緒にやろうと、どこを使ってもいいじゃないかということやってほしいと。16年経って余り成長というか、今は成長期にあるので、我が張っているというんでしょうか。そういうことも将来はやっていただきたい。

また、大きな企業も、通信会社とか情報会社も、宣伝半分、社会貢献半分でもいいと思うんですけれども、例えば安否情報はここを見たら全部出ているということをやっていたきたい。これはやはり政府がやってもだめですから、企業同士ないしはNPOがそれをコーディネートしていくぐらいの実力を持って、これを教訓して、組織の方の協力とネット上の情報の連携、標準化ということと一緒にできると、これが日本モデルとして相当大きな貢献になるのではないかと、これは私の非常に強い思いがあるので長々と書いてしまったんですけれども、実際はこの半分ぐらいに削ってもいいかと思っておりますけれども、書かせていただきました。少し駆け足ですけれども、説明させていただきました。

あとは、もうオープンにしますので、ここがちょっとおかしいのではないかと、これが入っていないのではないかと、この表現がおかしいということをごんごんいただければ、事務局にもメモしていただいて、またこれを改訂して、皆さんの意見を聞いてデバイスのプロ

セスを始めたいと思います。

個々の御意見はなるべく手短かにしていただきまして、たくさん御意見をいただきたいと思います。貴重な時間でございますので、よろしく願いいたします。

早瀬さん、お願いします。

○早瀬委員 中座のお詫びだけ。

○金子座長 そうですね。早く帰る方は、先をお願いします。

○早瀬委員 この後、帰って大阪で打ち合わせがあるので、後でちゃんとネットの中継を見て皆さんの御意見を参考にしたいと思います。

どうもありがとうございました。

(早瀬委員退室)

○金子座長 それでは、また電話なりメールなりでいただければと思います。

ほかの方どんどん、藤岡さん、お願いします。

○藤岡委員 お隣で恐縮なんですけれども、私も中座させていただきたいと思いますので、少し言い逃げのようになりますけれどもお話をさせていただけたらと思います。

私もワーキング・グループの会議は1回だけ除いて参加をさせていただきました。その場の議論は、どちらかといいますと割と狭義の NPO に関する事。もしくは、政府・行政に対しての提言ということをかなり集中して議論をしていただいていたような印象があります。

この推進会議では、やはり広くとらえるということで、まず提案1のところなんですけれども、個人、企業、団体等の持つ力ということで、広いセクターをイメージしてらっしゃるといって、一番上のところで、被災地のみならず全国からとあるんですけれども、これが全国各地からということと、もう一つ、いつも言っている政府・行政セクターと企業セクター、新しい市民セクターなど、これが大きく形を変えるときですので、各セクターからの力を総動員するというようなトーンがあった方がいいのではないかと考えています。

もう一つは、今回は東北という地域性もあったと思いますけれども、地域の共同体が果たした役割とか、今後果たすべき役割が非常に大きいのではないかと考えていますので、そのところの仕組みを今後どう変えていくか。自治体がどう補完していくかというところがもっと要るのではないかと考えています。

先ほどの特区制度もそうですけれども、その地域地域に合った新しい制度が出てくるのではないかとことです。

もう一つは、いつも首尾一貫言わせていただいていることが、私はサブセクターの経営者の立場として、こういった社会課題を解決しながら、なおかつ、被災地のみならず全国の雇用を確保するということが非常に重要だと思っております。そこで、一番下の段落のところ、新しい企業、大小さまざまということで、ここで御提案をいただいているんですけれども、営利企業と異なりまして社会的課題を解決しながらも職員を雇うというのは、

そんな簡単なことではございませんので、それに関する企業支援とか人材養成というのが非常に重要だと思っています。

今回、私も少ないながらも現地に行きまして、現地に新しいリーダーが誕生しているのを見てきました。こういうときこそ頑張ろうという人は、今、非常に努力を始めようとしているときですので、そこは是非後押しをして上げたいと思っております。

ワーキング・グループの素案の方には、包括的業務委託などありましたけれども、今回まさに自治体もある意味機能を失った部分があったり、その限界を知らされたこともあると思いますので、ではどういう在り方がいいかという中で、民間の力をどう活用するかというところで、民間委託であり、そういったところはそれぞれの自治体で考えるべきところもあり、政府がどう考えるかという方向性もあるのではないかと思います。

座長案に意見を言わせていただいて恐縮ですけれども、よろしく願いいたします。

○金子座長 正直これは今日の朝3時～5時の間に書いたもので、余り自信がないので、どんどん言っていたらと思います。ありがとうございました。

どうぞ。

○寺脇委員 座長案に2点申し上げたいと思います。

1点は、座長がさっきおっしゃっていた義捐金というものです。私はもう大賛成で、個人としても義捐金なんか出したいくないんです。何かのために出すのは喜んで出すんですけども、どこに行っているかわからない、まだ執行されているかどうかかわからないという話なんか見ると、ますます心配なんですけれども、そんなことはないでしょうけれども、勿論、義捐金、支援金という仕組みはあっていいんですけれども、それ以外のものという事は臆せずどんどん言うべきではないか。

付け加えれば、この制度、北城先生のおっしゃっている制度、金子先生のおっしゃっている制度も、大いにいいことだと思うので当然ここに書くとして、言うまでもないですけども、それ以外の、いわゆる社会事業者がやっているものとか、NPOがやっているものについてお金を出すのも、義捐金よりそっちの方がいいのではないかと、NPOがやっているこういう活動について出しましょうとやるというのを、もっと奨励するような仕組み、何か漠然と出すのではなくて、明確にこれと言ってやりましょうと。

それがもう一つの点ですけれども、私はITは不案内なので本当に最後のところは大事だと思うんですけども、情報の中に各NPOがこういうことを活動しようとして、こういうものを求めていますという、被災地からの情報だけではなくてNPOの情報も流通できるような仕組みに当然なっていくのではないかと思います。だから、この御提案は、両方とももうちょっと、分量はともかく強調して書くべきだと思います。

あとの方のことにして申し上げますと、今回、ツイッターとかで随分情報が行ったと言っていますけれども、あれはやはり最終的には、歴史的にはけがの巧妙だったと思われるようにしなければいけないので、ああいうものがあるからきちんとしたシステムはいいというようにならないためにも、こういう御提案をきちんと、座長が最後に加えてくださっ

たようなことを、きちんと整理して、かつ、ただ心配なのは、役人が運用することになると元の本阿弥になってしまうと思いますので、その運用の仕組みについてはきちんと釘をさしておいた方がいいと思います。

○金子座長 ありがとうございます。

黒田さん、お願いします。

○黒田委員 申し訳ございませんが、私も中座させていただくということで、先に発言をさせていただきます。

提案1のところで、個人、企業、団体等の持つ能力・ノウハウということで、その最初に個人ということで、看護師、カウンセラー等、そういった専門書の方のことが書いてあるんですが、今回もう既にそれに近いことを発言された方がいらっしゃいますけれども、例えば若い人が、被災地域における第一次産業に自ら従事していきたいとか、新しい社会的企業、企業ということもありますけれども、そういったものを興していきたいというような、本当のいわゆる個人、専門職というよりも個人もたくさんいらっしゃいますし、また、先ほど来出ていますけれども NPO とかにもコーディネーターの役割は、必ずしも得意としているわけではない場合もありますので、つまり人材育成という視点をもう少しこの提案1、あとにも人材に関しては幾つか出てくるんですが、その人材ということ個人のところにももう少し焦点を合わせるような形というか、それよりも少し光を当てるような形で書いていただけたらいいかなと思っております。

以上です。

○金子座長 ありがとうございます。

浅岡さん、お願いします。

○浅岡委員 どうまとめしていくかということはあるんですが、これから移住されていったり、元へ戻れるところは戻って新しい地域を再生したり、福島の場合は本当に新しい村をつくる。そうしたときは、新しい地域社会づくりを今後長い、ある意味で将来に向けて、災害にも強く、いろいろな意味で環境保全的で、温暖化対策にもなり、産業にもなり、さまざまな要素を取り込んだ、ある意味でいいモデル的な地域をつくれるか。

福島の場合は、特にそういう要素が強いかないかと思ったりします。ある部分かなり長期的に帰れないところがあるとすればですね。

東北の方も、非常に海岸線に近いところで移住することを決意して移動される方は、本当にそうだと思います。そういうことが、都道府県単位とか町村単位とか、大きな計画づくりも進むのだらうとは思いますが、もっと小さな地域でも、そういう意味でかなり専門性のある人たちを、どう合わせながらやっていけるのかということが必要かなと。その専門性は、単にまちづくりというよりは、もっと幅広い専門家を集められるような仕組みが必要で、ここをずっと拝見しましたときに、どの町という町のイメージが余り出てこない支援策というか、どこにでも必要なものがこれとなるんでしょうけれども、一人ひとりにとってみれば自分たちの町をどうするかという話、そこに踏み込んで人々が支援で

きるような仕組みを、何かイメージが必要かなと。書いているものを幾つかつないだようなイメージが必要かなと。

そう思いますのは、今日は時間が長くなってもいいということで言いますけれども、飯館村というところに 20 年ぐらい前から、東京の日大の先生方を中心にしたような NPO をつくって、もう既に本当に入り込んでいて、随分いろいろやっていて、木材チップなどでバイオマスの熱を特養の施設などにも導入いたしまして、ですから、今回いろいろ停電などが起こっても、決して寒い冬ではなかったというようなことをやっておられたと。とてもいいコミットメント、そういう人たちが、今、言ったように村の人たちの意識を誘導しつつとか、高めつつ、そうした専門的なことも、それからコーディネート的にも随分やられて、とてもいい実績をしておられて、もっとすばらしいと思ったのは、もう既に村ごと移住する避難村づくりで設計図を、村はこんなふうにしようと、ここにこんな建物を付けて、高齢者が多いところの高齢者が孤立しないとか、また、エネルギー消費も減らしながら原子力に依存しないということも入れながら、既に設計図がつくられかけているようなところがありまして、これまでも十分に長い年月入っていて、信頼関係もつくって、NPO がいるところは本当に少ないと思うんですけれども、これはとても幸福な例だと思いますけれども、これからのところにそういう形でコミットしていくことをサポートできるようなためには何が必要なのか。ここに何とかセンターという言葉があるんですけども、一律的なセンターづくりというよりは、こういうことができることをいろいろな形で、その地域に合ってできることをサポートしていけるような、総合的な村づくりやまちづくりが進むということ。それが 1 点です。

もう一つは、税制のところですけども、やはり今の税制の話ですと、認定 NPO や公益法人や優遇が受けられるところでどうするかという話を中心になっていまして、そこまですでにいけないけれども地域でとても重要な活動をするところに、ある意味ではこういうところがまとめて受けて、地域で活動を見ながら必要なところにお金が配られるような、そういうことも見渡したことが必要かなと。

京都で認定 NPO をつくっていったのも、そういう発想だったんですけども、もう少し小さい NPO と独自に取れないようなところの活動にも手助けができるような目配せが必要かなと思いました。

もう一点だけ、本当にうまくマッチングして地域を元気にしていこうと思いますと、恐ろしい人がいると思います。私どもが一つの場所を何とかしようと思って、すごい人がいるんですけども、それがもう無限にあるような話なので、すごい人がいて、その人々はある意味で雇用の場になり得る可能性があって、そういう雇用形態につながるような仕組みが一つです。

もう一つ、急減をどうするか。それだけの人の急減は一体どうか。人材育成と言われましたけれども、育成しているひまがないぐらい速やかに、だから、こういう経験のある人をこちらにシフトしながらということも含めて、大変たくさんの人の急減、またその中で

いろいろ育成していくことも含めて必要ですけれども、そういうことができるとすばらしい転換になっていけるのかなと思ったりしています。

長くなりまして恐縮です。

○金子座長 私のお願いですけれども、先ほどの飯館村のバイオマスのことは500字ぐらいで書いていただくと、そういう例が幾つかないと、これはすごくドライですね。それで皆さんが賛成されれば、そういうものが幾つかあってもいいんじゃないかと思しますので、是非お願いしたいと思います。

山口さん、お願いします。

○山口委員 今回の大震災で多くの方々が被災されて、そこからの復旧・復興ということがメインの我々のテーマですけれども、単に復興・復旧というのが元の状態に戻すのではなくて、東北地方という、ある意味特殊な地域、特殊と言うと差別的かもしれませんが、東北地方が持つ意味といいますか、それをもう一度、単に元に戻すのではなくて、それを活性化させることが非常に重要ではないか。そういうトーンがあった方がいいんじゃないかと思えます。

それは一つは、第一次産業、農業、林業、水産業、これが豊かな自然を背景に、今、日本全体を支えて来た。そこが単に港を直すだけではなくて、先ほど来ありました人材育成を含めて、より豊かになるような、ワーキング・グループの方では共同化ということ提案させていただいたんですが、それを含めて「新しい公共」の概念を使いながら、どう豊かに再生、活性化するかということが、この中にも盛り込まれていることが大事ではないかと思えます。

前文のことを含めて、単に復旧・復興というよりは、そういう点を盛り込んでいただければということをお願いさせていただきます。

○金子座長 これは、例えば1ページ目の最初の前振りのようなところに、そういうコンセプトを出すということなのか。それとも具体的なプランとしてということなのか。両方あると思うんですけれども。

○山口委員 1つは、やはり前振りのところで東北地方に対してのということをお願いいただければと思えますし、ワーキング・グループの方で提案させていただいたような農林水産業における協働化を通じて、もしも再生というものが入れられれば、是非具体的なところで入れていただければという意味です。

○金子座長 高橋さん、お願いします。

○高橋委員 東北出身の私はこの大震災に非常にこだわりを持ってしまして、都会からコンサルの人がしたり顔で入って行って、まちづくりだ何だということについて、私は非常に腹を立てている。やはり復旧・復興の主体は、被災者自らがやっていかなければいかぬということ。私どもは側面から、そういった方々を支援し、フォローしていくという観点が大事だということで、ある種、自立支援を軸にして考えていくということを一いつ盛り込まれたらいかがかと思えます。

ちなみに三陸、私のふるさとの相馬も、今までも結というものが残っていて、お互いに支え合っている。これが今回も有効性を発揮していたと思います。都会は、みんな孤立して、結とか助け合いの思想がないけれども、三陸とか東北には残っている。このうるわしき日本古来の文化を、是非次世代までつないでいくようなこともひとつ大事ではないかということ、金子先生の文書に入れていただければと思っております。

それから、先ほど共同化の話がありましたけれども、三陸で漁業などの関係で、共同で船を持つという事例が幾つかあるようなので、そういった好事例を幾つか列挙してもらったらどうか。調べたらすぐ出てくると思いますので、それを農業とか漁業とか林業とか、ワカメとか、カキとか、そういういろいろなところの新しい取組みの事例を是非書いていただければ、文書全体がすごくイメージが湧いてくると思います。

○金子座長 ありがとうございます。私は自己責任って余り好きではないんですけども、言った人が書いていただくということで、採用されるかどうかは皆さんの判断次第ということで、農業はバイオなど、環境は浅岡さんにやっていただいて、今の漁業は高橋さんに書いていただけるとありがたいと思います。半分冗談ですけども、是非一番強く思っている方、よく知っている方に書いていただけると、一番いいと思います。

最初のものは前文のところ、そういうことに触れて、今のはエピソードというか事例として、この中に入れるという形ですね。それはいいと思います。

小澤さん、お願いします。

○小澤委員 今の山口委員と高橋委員の御意見、本当に賛成です。東北地方で発災した今回の震災ですが、東北地方の持っている地域性、人間性というのは、やはり今、私たち都会の人間が忘れてしまっているような、日本人が今まで持ってきたよさのようなものがたくさんあると思います。そういう積み重ねられてきたものを、もう一度見つめ直す機会として、是非前振りのところで書いていただけたらと思います。

前段のところで、福島原発のことに触れておられますが、これは非常に重要なことで、触れないわけにはいきませんし、原発があったために、今の状況が更に複雑化しているわけですから、これは入れていただいてよかったと思います。

先ほど来、人材育成という言葉が幾つか出ていて、浅岡委員からは、もう育成するいとまもないほど、すぐにたくさんの人が必要という御意見もありました。今回の新しいまちづくりに関しては、ゼロからどころからマイナスからのスタートになっている地域がとて多いわけで、非常に長い時間がかかると思います。その地域の中で生きている子どもたち、また、ほかの地方から関わる若者たちも、新しい町をつくり、育てる中で、一緒に育っていけるようなまちづくりが是非必要で、今、小学校とか中学校の子どもたちは、地域の産業を支えたり、あるいは安全を担う人材として、是非成長してほしいと思っています。

最後に情報の連携ということで、先ほど日本モデルをつくる意気込みというお話がありましたけれども、今、地球上では本当に大きな災害が次から次へと起こっておりまして、今回の日本がいろいろ反省することとか、こういうアイデアがあるということをもとめて、

一つの情報のモデルができれば本当にすばらしいと思いました。

以上です。

○金子座長 ありがとうございます。

向田さん、お願いします。

○向田委員 私も今、若い方たちの一番の関心は、やはり原発の事故ですね。寄ると触ると毎日パソコンを開いて状況を確認するというような事態になっておりまして「新しい公共」の観点から言ったら、どう表現したらいいのか迷うんですけども、みんなでどうやって共同していくか、助け合っていくかという部分では、とても大事なことだと思いますので、どう表現したらいいのか私も提案の仕方がわかりませんが、それを外すわけにはいかないというのは同感です。

それから、先ほど高橋委員がおっしゃっていた漁業の関係は、重茂漁協さんのワカメの話だと思うんです。新聞にも載っておりまして、私も一部関わっているところなんですけれども、やはりみんなで助け合っていくという意味では、本当に大事な、漁協という「新しい公共」なんでしょうか、共同組合という助け合いの組織の持つ、これを乗り切ろうというような、自分たちで提案をして、みんなで船を所有していこうという動きというのはすばらしいと思いました。

もう一つ、金子座長から出資に対する取組みということ。それから、北城委員からも提案されたんですけども、私たちが寄附をすることはとても大事だと思うんですけども、それと同時に寄附の行く先が見えないということがなかなか、私の寄附のお金はどこに行ってしまうのか、それはもう執行されたのか、いつなのかということからすると、やはり自分が応援したい相手が見える、それと企業だとか団体だとか人々と自分が伴走していくことができるという意味では、投資ということはとても大事だと思うんです。その情報をどのように公開するかとか、説明責任とか、それは必ず付いて回ることなんですけれども、そして多分自分のリスクを負うということなんですけれども、やはりそれを促すためには何らかの後押しをするという意味で、税制優遇というのも大事なことではないかと思えます。ミュージックセキュリティーズさんたちのことは、私も伺っております。

もう一つは、これは NPO バンクへの資金もひとつ、前回取り上げたんですけども、実際には気仙沼で 100 年ももつような住宅をつくらうという動きをつくっておりまして、近々に 1 戸はもう建てられる予定なんですけれども、やはりある程度のお金が必要で、そこにも投資減税ができれば、その方たちがもっともっと進めるんじゃないかと思うんです。

実際それでやってみてわかったことは、東日本、特に東北地方の方々は、やはり地域地域ですごく暮らし方とか文化がすごく違うということで、我々都会に住んでいる側が、ああやったらいいんじゃないか、こうやったらいいんじゃないかということは、やはり外側からの支援として、実際にどうするのか、どういうふうにコミュニティを再生するかということは、その方たちが決めることだと思うんです。それを我々は伴走するというんでしょうか、そういうことが必要ではないかと思えます。

そういう動きを取ってみて初めて、50戸の集落と100戸の集落では皆さんの暮らし方が違うとか、いきなり行ってもよそ者が歩いているというふうになってしまって、その地域のキーパーソンに話をするとか、いわゆる行政との連携とか、いろいろな関わりの中で復興・復旧は進まないんだということを改めて感じました。

ただ、そういうことを応援しようという、一周り、二周り外側の動きが、ある意味で動いていく、加速していくような動きは、本当に必要だと思っています。

もう一つ、ワーキング・グループの提案の中で、いろいろな寄附を基金化して、それを基に融資するというお話もあったんですけども、そのときやはり融資というのは、ただお金を貸すだけではなくて、必ずテクニカルアシスタンスという助言だとかが絶対必要なんです。だから、そのときにはそういうものをもしつくるという動きがあるんだったら、必ずそれはセットだということを是非中に入れていただきたいと思っています。

○金子座長 向田さんには是非先ほどの北城さんの御提案で私が乗ったもののその辺に、先ほどの事例か、もう少しNPOバンクとしての役割、大変大きなものがあると思いますので、その辺のコントリビューションを文章か事例かいただけるとありがたいと思うとともに、最後のところは本当にそう思います。向田さんのところはすごく素晴らしい業績をやられたのは、ある種の情報と信用がある。勿論、それは比較的狭いというか、仲間の中でやっているということもあると思います。別のところのNPOバンクはそれを一気に広げたいためにうまくいかないということもあるので、その辺のノウハウがないとファンドをつくってやると言ってもそこでうまくいかない可能性があって、それだと担保を取ってみたい話になってしまうので、その辺も是非文章とかをいただいて、どちらかというところとワーキング・グループの方にコントリビューションするのかもしれませんが、そういうのもいただけるとありがたいなど、私はそこら辺よく書けないのでお願いします。

白井さん、次に北城さん、お願いします。

○白井委員 ありがとうございます。今、向田委員さんがおっしゃったことと関連して、そのために本当に熟議の推進というのをここに載せていくということは結構重要なことではないかと考えておまして、というのも、我々も例えば大阪でいろんなNPOが集まって、どうやって復興支援ができるのかというような会議をしたときに、今は緊急支援のフェーズから、地域がどういう地域づくりをしていくのか。新しくどういうビジョンをかいいていくのかというところがないとなかなか支援というのもしづらいというようなフェーズに移ってきているという話がありまして、勿論、それを大阪で地域づくりをああせい、こうせいということを勝手に指示してというものではないものですから、私もその中でそれこそ毛色が違うかなと思いつつ恐る恐る復興熟議のことを御紹介させていただいたら、皆さんおおとなりまして、そんなものがあつたのかと。正直、「新しい公共」関連では熟議は皆さん知ってらっしゃるのかと思ってたら、やはり当たり前なんですけれども、今回、ボランティアとかで参加されているのは普通の一般企業のサラリーマンの方だったりとか、建築家の方だったりとか、全然今まで「新しい公共」というのに関わってこなかった方々

にとって、行政がやるとかというのではなくてもう本当に老若男女いろんな人が参加してという形で合意形成づくりをやるという方法があるのかというのは結構新鮮なことだったみたいで、勿論、それをやるかどうかということも地域が主体になって決めていくことだと思うんですけども、そういうことを推進していくという道があるんですよということをここに乘せていくということは非常に重要なことではないかと思っております。

あともう一つ、全体に関してなんですけれども、金子先生は先ほどドライとおっしゃいましたけれども、全然そんなことはなくて、非常に熱い文章だなと思っております、本当に金子先生のお気持ちがあふれ出てくるような、それが非常に今回は熱い形がいいのではないかと。「新しい公共」というのは熱い人たち、気持ちがある人たちを応援していくとか、人々に火を付けていくという意味で、人々を励ますような文書というので非常に全体としていい形に仕上げているということを感じております。

以上です。

○金子座長 では、北城さん、どうぞ。

○北城委員 2 ページの一番最後のパラグラフの4行目に「地元経済に貢献することが必要である」と書いてあるんですけども、この前に「新しい雇用がつくり出されて」と雇用を少し強調していただいたらどうかということと、この文章のその次の段落で、「新しい公共」に関係するのでどうしても「社会的起業増加のためにエンジェル税制の活用」。そうすると、社会起業家だけしか対象にならないのかという文章に読める気がするので、社会起業家を含めてとか、少し一般企業まで拡大したらどうかという感じと、ここに書くか別のところで言うていただいてもいいんですけども、エンジェル税制という言葉がよくないのではないかと思うので、創業支援税制と言葉を変えてほしい。それも付け加えていただくといいかなと思いました。

○金子座長 わかりました。それはやります。

○北城委員 普通の人には知らないんです。エンジェル税制とは何のことかわからない。子育てプランの税制かと思われるので、前、厚生労働省がエンゼルプランをつくられたので、創業支援と言った方が一般の人にはわかるのではないかと思います。

○金子座長 ありがとうございます。

どうぞ。

○高橋委員 実は私ども今、ふるさと起業塾という6次化の取組みを去年からやっていて、既に50名の起業家がいて、今年中にあと50名をつくろうということで取組んでいるんですけども、是非ここに東北はこの地域、第一次産業の宝庫でありますので、6次化の推進、新たな起業家の育成、こういう視点を社会的と限らず6次化を進める中の起業でもいいし、その観点を1つ入れていただければと思います。

○金子座長 是非文章をいただきたいと思います。ありがとうございます。

○高橋委員 ものを言うとまた仕事が増えるんで。

○金子座長 でも、私は書けないから、書いていただくしかないです。

ほかに。坪郷さん、お願いします。

○坪郷委員 金子さんの文章はまだ十分読み切れていないので、全体の構成をどういうふうにするのが一番いいのかというのはまだ見通しができないので、じっくり読ませていただいてからとは思っていますが、1つは支援制度などの在り方ですので、新たな制度の提案あるいは政策の提案だとすると、それなりにボリュームがないとなかなか中身がわかりにくいという部分もあると思うんです。

それといろんな具体例や理念的なもの、あるいは方向性のようなものの書いてある部分と、具体的な制度の提案の部分が明確にわかるようになっていないとなかなか文章として読みにくいのではないかと思うんです。これはボリューム自体をもっと減らされるのかどうかということも関わるでしょうけれども、そういう基本的な見方や方向性の議論と具体的な事例を挙げる部分と、具体的な制度提案、そこをもう少し全体を見渡して整理が必要かなと思うんですが、まだ十分読み込んでいないので具体的にというのはまだあれなんです、最初の印象だけです。

○金子座長 逆を言うと、制度面のディテールは、ワーキング・グループの方で書いていただいて、ここは比較的薄くて厚いという感じでやりたいと私は思っています。こちらでだれか手が挙がりましたか。

山口さん、それから兼間さん、お願いします。

○山口委員 金子座長がタイトルのところで提案1を「個人、企業、団体等の持つ能力・ノウハウの結集」と書いていただいたので、私自身腑に落ちるところがあるんですが、最初のところにその具体例として看護師、カウンセラーと中小企業診断士等の専門職に関する記述があって、次に今度は公務員があって、次は一举に事業体としての企業があって、そうすると、個人のボランティアに関するその部分が抜けているような気がします。あるいは学生にとってということで、例えば個人ですと、今回東京都など、そういった自体などがボランティアバスを出したりとか、社会福祉協議会がボランティアバスを出すとか、そういうようなことによって行きやすくなった、あるいは一部の学校ではボランティアを単位制とするということによって学生が行きやすくなったですとか、それがいいか悪いかは別にしても、個人として、あるいは企業では後ろの方に NPO に出向した場合に人件費等を云々というのがありますが、一般の企業がプロボノの支援をするとか、そういう意味で、個人がボランティアとして働くときの支援というのは考えた方がいいのではないかと思います。

○金子座長 ありがとうございます。この辺は時間がなかったのでワーキング・グループの方のコピペですので、確かにそう。黒田さんも先ほどおっしゃっていた。そういう意味ではかなり抜けていると。

兼間さん、どうぞ。

○兼間委員 今の御意見に関連しているかもしれませんが、1ページの真ん中のところに「一人ひとりの国民」といろいろあって、政府とか行政とかこの並びが、今の個人、

企業、団体等ということで関連して、これも同じような感じを並べ方として個人から政府まで。

○金子座長 御提案ください。そうしないと取り上げられませんから。御提案いただいて、皆さん賛成すればそれでやりましょう。これがいいとは思っていないですけども、ベストのものはないので。

○兼間委員 これは後にします。

提案2のところですけども、これは「新しい公共」らしい、いわゆるこれまでには記載がなかったような論調ですので、できたら私の感じ方ですけども、初めの方の提案1と替えたらどうかという感じをいたしました。

○金子座長 順番ということですか。

○兼間委員 はい。一番最初の出だしのところの推進会議座長ドラフトというところの記載ですけども、非常にホットな金子先生らしいいい感じでいいなというので、その次に2の提案を入れていただいて、それから1の方にいくという感じにしたらいかなということ。

先ほど坪郷さんの方からよく似たことですけども、この構成を大見出しと小見出しあるいは時系列に書くとかいろいろするといいいかなということを感じました。

以上です。

○金子座長 高橋さん、どうぞ。

○高橋委員 4ページのところに協働組合とか各主体が多様な主体と書いておりますけれども、ここの協働組合の下に、私が言うのも差しさわりがあるのかなと思うんですけども、労働組合というのは入らないものなんでしょうか。実は現在、連合が岩手、宮城、福島に、別途自治労も同じ3県にそれぞれ既に1万人近い人たちをローテーションを組んで現場を一生懸命やっているということもありますので、何とか皆さんの合意が得られるのであれば1つの主体にそういうことを言っていただけないかと思います。

○金子座長 では、寺脇さん、お願いします。

○寺脇委員 先ほどの熟議のところをまた見ていたんですけども、細かい話で書けと言われれば書きますけれども、2段落目のところで横浜の例を出していただいてこれはすごいんですけども、結果として横浜市の施策に反映されるというだけではなくて、当然、そのとき自分がコーディネーターになってもいいよとかという人たちがいっぱい出てきたということがあると思うので、いわゆる行政に対する要望はもう一つ大きな要素なんだけれども、やはり自分たちが言い出したからにはやるよというのが引っ込みがつかなくなるという要素があればあると思うので、そこが出るとそれこそ今、一番目のところに持ってくるといういいお話があったので、そこにあれしたときもそのいわゆる全体の精神がやはりしてもらっただけではなくて自分たちもやる。だけれども、自分たちもやる状況ではない人にはどういう状況をつくるのかという話なんだと思いますので。

○金子座長 ありがとうございます。いろいろ面白い話がたくさんありますね。

佐野さんはよろしいですか。

○佐野委員 提案できない、書けない、書かないということで3つばかり感想をさせていただきたい。

先ほど東北の地域性というか、高橋さんは東北の御出身でございまして、それはおっしゃるとおりだと思うんです。そこに根差している東北というのがもっと見えたらということなんですけれども、それはそれで見えるというのはすごくいいんですけれども、私は今回は町と町を支えているインフラとかシステムというもの、それが現在だとしたら、やはり東北が日本を支えてきたという感じがするんです。東北という共同体が日本の基礎の部分を支えてきたという感じはすごくありまして、日本的なる過去をも直撃した。だから、町とか社会システムという現在も直撃されたし、それを支えてきた過去が直撃された。今は原発で未来を奪われようとしている。そういう感じがしてしまっていて、なかなか言葉にもならないうまく言えないんですけれども、勿論、東北はすごい地域だから、そのことを書くのはいいんですけれども、余り礼賛というか、そういうニュアンスではない形で是非「新しい公共」の推進会議らしく、金子先生らしく書いていただけたらありがたいというのが第1点です。

もう一つは、物すごい地域に根差したというのを先ほど浅岡さんが避難村づくりをしているというところがあるというのは初耳で、無茶苦茶面白いなと思ったんですが、これは是非浅岡さんに書いていただきたいと思うんですけれども、避難ということと言うと、原発とどうクロスするかということと言うと、未来を奪われるという感じで言う、先ほど若者の育成とか人材育成という話が出てきたんですけれども、非常に深刻に考えているのは、若い人にほど感受性が高くて、被曝の影響が多いということがあるんです。

これは多分「新しい公共」推進会議のテーマではないということをはっきりした上で、やはり福島県の小学生と中学生を疎開させられないか。学童疎開。それを過疎地で受け入れるというのがあるんです。今、山村留学というのがすごく何十年とプログラムをつくってきたわけです。ですから、福島の大体小学生が10万、中学生が5万強、15万人ぐらいなんですけれども、そういう方々を山村留学のような形で過疎地で受け入れていただいて、そこで内地留学というか、そういう形で非常につらい状況なんだけれども、そこで生き生きと避難から受動的に避けるのではなくて、そこでポジティブに生きていただくというようにできればすばらしいなど。大体、山村留学の月謝は3万5,000円～8万円らしいです。

○高橋委員 月ですか。

○佐野委員 月。15万を1年、8万円の月謝を払ってやるとしたら、1,400～1,500億要るんです。だから、かなり費用負担が要るとは思うんですけれども、そういう原発と「新しい公共」と子どもたちの安全、未来の担保というか、そんなことにならないかなと思って考えているんですけれども、ならないんです。だから、書けないんです。それが2番目の感想です。

3番目が、たくさん人がいる。これは先ほどのワーキング・グループでも言わせていただいたんですけども、我々が今作業グループが御検討いただいた「新しい公共・推進復興センター」は、大賛成だし、そういう枠組みをつくっていくべきだと思うんですが、ここで大事なのは、それが中学校区ぐらいの地区レベルでつくられているということになれば、それを担っていくコーディネーターだとか専門家だとかという物すごい数の人がいるんです。

勿論、外から専門家は来ていただくということもすごくいいと思うんですけども、例えば中学校区というと東北3県でどれぐらいあるのか調べてはいないですけども、少なくとも500はあるだろうと思うんです。そういうところで地元の人たちが働いていただくような、ここでもCFWみたいなことがありましたけれども、そういう発想で、地元のことは地元の人が一番知っているわけですから、そういうところで働いてもらうような形で、むしろお世話役をそういう形で新しいところ、旧来の自治会とはまた違うものになると思うんですけども、そういう新しい経験も含めてそこで頑張ってもらっていて、それを同時に人材育成になっている、仕事も持っているというふうな感じで地区レベルの「新しい公共・推進復興センター」、既に現地では連復センター、連携復興センターと呼んでいるみたいですけども、そういうものを地区レベルで展開していくみたいなことがあればいいのになど、これは私の願望ですから書けませんし、書きませんので、気持ちを酌んでいただいて、金子先生、ひとつよろしくお願いいたします。

○金子座長 ありがとうございます。濱口さんと松原さん、勿論、どんどん御発言いただければと思います。

○濱口 WG 委員 オブザーバーの濱口でございます。

1点だけ、推進会議のやり方がわからないので教えていただきたいだけなんですけれども、この推進会議で提言をした後のいろんな執行体制は、もう議論が始まっているんでしょうか。先過ぎる話かもしれませんが、教えていただければと思います。

○金子座長 何も推進会議としては議論していません。松原さんとワーキング・グループもちゃんとモニターをしましょうということで、円卓会議がやったような形で内閣府の方から牽制球をずっと投げさせていただくなり、紹介をかけて、1か月後に本当にできたらみたいでマトリックスを出したんですけども、そういうことをやろうということは多分事務局ともそういう面倒くさいことをやるとおっしゃっていますのでやったと思っておりませんが、それ以上のことはまだ。これについては玄葉さんとか逢坂さんとかの確認を多分得るという手順が必要だと思いますので、少なくとも政府の取組みについて各省からちゃんと書いていただき、それを少し牽制というかチェックし、本当にやったのかということをも半年後とか3か月後、ないしは2次補正ができたときとか、それはやりたいなと思っています。

あとは推進会議自体が6月以降にどうなるかというのは全然知りませんので、6月で終わるのかは知りませんので、どうなるかは何とも言えませんが、そのチェックはしないと

無責任になるのではないかと思いますので、何かしらのことはこれから事務局と玄葉さん、逢坂さんと相談しておきます。

以上です。

○濱口 WG 委員 それを前提にして1点だけ。提案4のワーキング・グループの目玉化しつつあるんですが、支援拠点の創設について、これがある種先ほどワーキングでも申し上げましたが、ここの内閣府の方で所管される可能性があるのであれば、もう少し強い執行になるのかなんですが、それも併せてお願いをいたします。

○金子座長 どうぞ。

○松原 WG 主査 「新しい公共」の震災制度のワーキング・グループは、私が提案して金子座長に許可いただいて構成させていただいたものなんですが、もう一つは、この前、金子座長とお話して、もう1点お願いしている点がございませう。

1つはフォローアップということで、提案しているものがそのままなっていくというのは非常に残念であるということで、「新しい公共」推進会議がどうなるのかわからないというところがありますからそれ次第ではあるんですが、もし親会議が続いていくのであったら、ワーキング・グループも継続させていただいてきちんとフォローアップしていきたいと。

第2点は、同時に御検討いただいているところですが、今回の震災の提言に関しましては、復興構想会議の6月末にやるという第1次提言に合わせる形で大急ぎでまとめたという点がございませう。その点で言いますと、まだ我々も、多分全体として今回の特に福島の問題がありますから、復興・復旧、全体の支援の体制に関しては、まだ見えていないところがたくさんあると思っています。

そういう点で、復興構想会議も多分この後続いて2次提言、3次提言になるかどうかかわからないですが、そうなる点においては、それに合わせたワーキング・グループからの提言、また皆様からの引き続きの御協力できる体制というのを是非。メンバーはこのままでというわけではないんですが、是非お願いしたいということで金子座長には私からお願いしている次第で、これに関しては金子座長は先ほどおっしゃっていただいたように、逢坂政務官、玄葉担当大臣と事務局とも諮っていただけるように是非お願いしたいということをおっしゃいます。

○金子座長 そのとおりにやっていただきたいと思います。ほかはいかがでしょうか。そろそろ時間も過ぎていたんですけども、大変たくさん御意見、いろんななるほどとすばらしい意見をいただきまして、今の感じだと例みたいなものを入れる。だれが書くかは別にして、一番それを身近に感じている方が書いていただいて幾つか載せるのがいいのではないかなと思うのと、私がよくわからない対象についての文章はまた別途メールとかでお願いして、ここについて書いたとか、例えば坪郷さんなどは多分協働組合とか書いてとか、加藤さんと一緒に。長くなるような気がします。これは冗談ですが、加藤さん、済みませう。本当に冗談です。例えばですけども、そういう形でお願いをしてこれをざっと編集

して、順番を変えるとかタイトルを変えるとか、書きぶりもコピーしたところはたくさんありますので、そういう意味ではでこぼこがありますので、その辺も少しならして、日程は、ワーキング・グループの方も2日、3日のヒアリングを基に修正案が多分出てくることとなります。それもこちらに連動させることとなります。

ということは、来週全般をめどに本文について事務局を通じてメールなどで委員の皆様にお伺いさせていただき、それをもって事務方で各省調整を行っていただくことになるかと思っておりますというのが私の発言として書いてありますので、2つあって、1つは文章を整える、ないしは変えるという部分。これは私がとりあえずやります。また皆さんに見ていただきます。調整はやらないで書くとみっともないとか、どうにもならないことを書いてもしょうがないし、また調整していただくと実はこんなこともできるよという案も出てくるということも過去にありますので、これは事務局にやっていただくということを並行に進めようと思っておりますので、今日いただいたのを考えてみて、また。

ヒアリングが終わった瞬間に、まだ調整中ですけれども、中旬に推進会議ワーキング・グループ合同会議が入る。これはさまざまな大臣などの日程ですから全然まだわからないんですけれども、ここの1週間ぐらいでだだだっと全部やってしまうということになると思います。

私の方から皆様方に先ほど言ったように、私ないし事務局から、ここを書いていただけないかとか、コントリビュートしていただけないかということをお願いすることになります。皆さんの方からここは私書いていいよとか、そういうこともいただければと思います。

文章はメールなどで直していただき、それで最終の提案、とりまとめの方にもっていければと思っておりますので、今日は大変いろいろたくさんの生産的な意見をいただきました。文章全体も余り長くはしたくないなと思いつつ、少しめり張りを付けてやりたいと思いますので。

どうぞ。

○松原 WG 主査 1点だけ皆さんにお願いなんです、2日、3日、ヒアリングに行きますが、推進会議の委員の皆さんも御参加いただけるということで、なるべく現地のたくさんの方のいろんな意見をきちんと聞いていきたいと思ったんです。2日、3日に関しては、3時間ずつ各自とってあります。長いんですが、勿論、現地の方で非常にやる気のある方などヒアリングでお願いしてはおるんですけれども、一般に来るオブザーバーの方からも意見交換の時間を設けております。

できましたら、今、皆様がおっしゃられたような方々でこの人は行って意見を言ってもらったらいいのではないかと、もしくはペーパーを持ってどなたかに来てもらうという形で、推進会議の方もしくはワーキング・グループの方にこういう人の意見を反映させたい、した方がいいと思う現地の方がおられましたら、是非お声がけをいただいて来ていただく。もしくは御意見を当日の会場もしくはその前後にペーパーでワーキング・グループの方に寄せていただくということで、是非現地の被災地の声というのをしっかり受け止めさせて

いただきたいと思っていますので。

○佐野委員 オープンで広い場所でやるんですか。定員はどれぐらいですか。

○松原 WG 主査 50~100人ぐらい入る場所でやりますし、当日参加はOKですし、事前申し込みは不要ですので、来ていただいて、もし何かペーパーを持ってきていただいたら必ず受け取るようにしますので、是非皆さんのお知り合いの方、先ほどおっしゃられた飯館村などの方にも来ていただくように是非お願いしたいということで、日は詰まっておるんですけども、是非その辺お願いしたいなと思っております。よろしくお願いします。

○金子座長 ありがとうございます。一言二言、言い忘れたないし。

高橋さん、どうぞ。

○高橋委員 私、FCCのスキーム図、もし入れるのであれば付けていただくとよろしいかと思えます。その内容、活動している人を声かける。我々事務局にメールでこの人ということによろしいのかな。

○松原 WG 主査 声かけというのは、当然来ていただくということです。当日来ていただいて、もし御主張とかあったら、私の場合紙で書いていただくと必ず残るので紙で書いていただいて、なかったら当日に手を挙げて発言していただいてもOKです。

○高橋委員 わざわざ来てもらって発言できなかったというのではかわいそうだなと思って。

○松原 WG 主査 ですので、紙でもってきてもらえればまず間違いなく受け取りますし、も必ず1時間以上は会場等の発言の時間を設けますので、来ていただいた方には手を挙げていただくようお願いしておいてください。そうすると大歓迎で。よろしくお願いします。

○金子座長 ほかにございますか。よろしゅうございますでしょうか。

○松原 WG 主査 2日とも金子座長も来ていただくんですね。

○金子座長 私そのつもりで今、予定しております。

○松原 WG 主査 2日とも金子座長に来ていただきますので、推進会議、ワーキング・グループとともに意見が反映できる場になると思いますので、金子座長、よろしくお願いします。

○金子座長 向田さん、何か。

○向田委員 今の時間と場所はお知らせしていただいていたか。

○松原 WG 主査 ホームページに乗っています。「新しい公共」推進会議のWGのホームページにヒアリングの場所と時間が載っていますので、皆さんに御案内していないのではなかったか。

○井野内閣府参事官 推進会議の委員の皆さん全員には詳細にはしていませんので。

○松原 WG 主査 では、先ほどお配りしたものを後で今日中にはメールで皆さんに推進会議委員全員にヒアリングに呼んでいる方の名前と時間と場所、詳細をもう一回事務局の方から送っていただきますので、よろしくお願いします。

○金子座長 ありがとうございます。先ほど申し上げたような予定、日程の中でできるだけ私としては対応して、ただ、全体の見栄えとかバランスもありますので、どういうふうになるかはわかりませんが、仕掛かり品についてはまた皆さん必ずメールなどでお送りし、御意見をいただき、6月中旬に推進会議があるところで決まるような形で持っていきたいと思います。

東北に関しては、井上ひさしとか、高橋紀夫さんでしたか、東北学、大同2年に蝦夷が葬られたとか、私は学がないので、非常に深い、先ほど佐野さんがおっしゃったように私も気分的にはふるさとは日本の4分の1が消えてしまったような感じがあるんですけども、それをうまく書くのは松岡正剛ぐらいでないとなかなか書けないかなと思いますけれども、その辺も少しじっくり考えて、また皆さん今日ここですごく急いで読んでいただいたので、今日トイレか何かで読んでいただくといろいろ思いつくこともあると思いますので、その辺また御意見いただければと思います。

本当に素晴らしいですね。ト書きは19時10分閉会となって、今、4分ぐらいですので、時計は見てなかったんですけども、御協力いただきましてありがとうございます。

それでは、今日の非公式会合、これでおしまいにさせていただきたいと思います。どうもありがとうございます。